

平成28年9月

試験的なサバ類個別漁獲割当（IQ）の継続について
（北部太平洋海区大中型まき網）

1 平成27年度の実施概要

- （1）平成26年度の結果を踏まえ、対象を北部太平洋海区で操業する大中型まき網漁船（1そうまき）の全船に拡大し、10月～3月の6ヶ月間、試験的なIQ管理を実施。
- （2）IQ管理期間の前半（10月～12月）は月別に、後半（1月～3月）は一括してIQ枠を設定。TACが遵守され、TAC管理の実効性が確保された。
- （3）30年ぶりの卓越年級群である平成25年級群が占める漁場が26年度に続いて形成され、また、この年級群の成長が遅れて小型であったことから中・大型魚の選択的な漁獲を行うことが困難であった。また、前半よりも後半の方が、1船団の1操業日当たりの平均漁獲量が多く、また、1船団当たりの平均操業日数が少なかった。

2 平成28年度の実施予定

平成25年級群（卓越年級群）の成長等が見込まれる漁場の下で28年度も前年と同様の方法で試験を継続する。

- （1）北部太平洋海区で操業する大中型まき網漁船（1そうまき）の全船を対象に、本年10月～3月の6ヶ月間、試験的なIQ管理を実施する。
- （2）IQ管理期間の前半（10月～12月）は月別にIQ枠を設定し、後半（1月～3月）は一括のIQ枠を設定する。
- （3）IQ試験管理の実施に当たっては、北部太平洋まき網漁連がIQ枠の配分、遵守措置等を定めたIQ管理実施計画を作成し、水産庁がこれを確認する。
※試験的IQ管理期間においては、水産庁としてもVMSによる対象船の航跡把握、水揚げ検査の実施を通じ、IQ管理を支援する。
※漁業操業、水揚げ等に係るデータを収集し、研究機関で、IQ管理の効果・課題等について検証を行う。

平成27年度試験的IQ管理の実施結果

1. 試験内容

北部太平洋海区において操業する大中型まき網漁船（1そうまき）の全船（35船団）を対象に、サバ類の盛漁期に当たる平成27年10月から平成28年3月までの間、試験的IQ管理を実施し、漁獲状況、漁獲物の組成、操業パターン等について比較・検証を行った。

IQ枠については、IQ管理期間の前半（10月～12月）を1ヶ月間の枠、後半（1月～3月）を3ヶ月間の枠とし、それぞれ過去の漁獲水準を基に前半は毎月2000t、後半は3600tを基本として設定。

2. 試験結果

(1) 操業の結果

10月は魚群の来遊が遅れたために消化率が低く、後半には漁場の形成が安定した。約30年ぶりの大発生群である平成25年級群が漁場を占める状況は平成26年度と同様であった。このような漁場の豊度は高い中で、TACが遵守され、TAC管理の実効性が確保された。一方で、この年級群は、成長が近年には例がないほど遅れ、中型魚まで成長せず小型魚のままであった。結果として、数少ない中・大型魚を選択して漁獲することが難しい状況であった。

① 漁獲量・消化率

消化率は、10月が11%、11月が73%、12月及び1～3月は80%以上であり、後半になるほど消化率が高かった。IQ管理を通じてTACが遵守され、TAC管理の実効性が確保されるとともに、残枠は合理的な水準となった。

	前半			後半
	10月	11月	12月	1～3月
全船団の漁獲量	5,048t	49,228t	51,516t	91,080t
全船団の消化率	11%	73%	81%	86%
漁獲枠（IQ枠の合計）	45,965t	67,472t	63,584t	106,343t

(注) 10～12月の消化残は1～3月のIQ枠に配分。

②漁場の形成状況・魚体サイズ

IQ管理期間を通じ、平成25年級群の小型魚（250～300g程度）が漁場を占めており、中・大型魚の選択的な漁獲を行うことが難しく、平成25年級群と考えられる銘柄が漁獲の94%を占めた。この傾向は昨年も同様であり、また、前半（1ヶ月枠）・後半（3ヶ月枠）の間や船団ごとの差は見られなかった。

③コスト削減・漁場選択等

IQ管理期間を通じて、各船団の基本的な操業パターン（漁場の選択、出漁時期等）にばらつきは見られなかった。

④1船団の1操業日当たりの平均漁獲量、1船団当たりの平均操業日数、

前半（11月及び12月。1ヶ月枠。）と後半（1～3月。3ヶ月枠。）を比較すると、1船団1操業日当たりの平均漁獲量は後半（3ヶ月枠）になるほど多く、また、1船団当たりの平均操業日数は、後半（3ヶ月枠）の方が少なかった。

	前半			後半
	10月	11月	12月	1～3月（3ヶ月間の値）
1船団1日の漁獲量（A）	33t	164t	186t	216t
1船団の操業日数（B）	4.3日	8.5日	8.1日	12.3日

※①から④までについては試験的IQ管理において収集した操業記録から集計。

⑤監視・取締り

TAC情報システムによる漁獲実績把握、水揚検査、取締船の派遣、衛星船位監視システム（VMS）による航跡把握等を実施した。